

公益社団法人私立大学情報教育協会  
平成 27 年度第 5 回大学情報システム研究委員会議事概要

- I. 日 時：平成 28 年 1 月 19 日(火) 12：30 から 14：30 まで  
II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局会議室  
III. 参加者：大野担当理事、岩井委員長、杉山委員、小川委員、藤本委員、ニッセイコム事務局：井端事務局長、野本

IV. 検討事項

当初検討項目として「2. 教員自身による授業の振り返り・改善を図るティーチング・ポートフォリオの留意点」を設定して検討する予定であったが、他の機関で報告されている内容を参考にすることで本委員会では検討しないことにした。しかし、他機関の報告を見るとティーチング・ポートフォリオを活用して授業を振り返るといった教員が予定したほどには多くないことを踏まえて、検討項目の視点をティーチング・ポートフォリオ導入にあたっての必要性などを中心とした内容に変更することにし、「2. 授業価値を振り返るためのティーチング・ポートフォリオの導入」とした。その上で、導入の必要性・課題について前回の意見を踏まえて整理した資料が提示され、以下のような意見があった。

(1) ティーチング・ポートフォリオ導入の必要性

- ① ティーチング・ポートフォリオを導入すれば、授業を振り返る機会をシステム的に行うことができる点で満足度が高まるが、授業を改善しようという行動にはなかなか結びつかない。
- ② アメリカでは教員の身分保証制度としてテニユアがあり、それを証明する手段としてティーチング・ポートフォリオが位置づけられているので、そのような大義名分がなければ導入されなかった。日本ではテニユアのような制度がないので導入を義務付けるインセンティブが弱い。
- ③ 日常業務の中で意識しないで振り返りができるようになるのが、教員にとっては抵抗が一番少ないと思われる。ただし、教員の評価に繋げることは望ましくない。
- ④ ティーチング・ポートフォリオは義務付けるのではなく、教員の主体性を尊重するところで位置づけることが必要ではないか。

(2) ティーチング・ポートフォリオ導入の課題

教員一人ひとりにとって負担がかからない便宜的な振り返りシステムを構築することが重要な課題であることを共通理解した上で、そのイメージについて以下のような意見交換が行われた。

- ① ティーチング・ポートフォリオとして設定するのではなく、授業アンケート結果に対する今後の改善点をコメントするような簡易なティーチング・ポートフォリオをイメージしてはどうか。
- ② 金沢工大では、教養科目の授業でアンケートを実施している例として、学生に「到達目標への達成度と理由」、「授業内容・取組みへの評価・意見」を回答させており、教員はアンケートのフィードバックを行っている。その上で、授業点検シートでは、授業内容・運営の自

己点検を通じて改善案や期待される効果、授業アンケートに対する次年度の対応を記述することでかなり簡略化している。

- ③ 「カリキュラムマップ・ツリーにおける授業の位置付け」、「教育目標に対する教育実践の振り返り」、「授業アンケート結果に対する今後の改善点」を簡易なティーチング・ポートフォリオとしてシステム化できれば良いのではないか。
- ④ 授業アンケートとシラバスを連動して、次年度の新しいシラバスの書き込みができる便利な仕事ツールとしての簡易なティーチング・ポートフォリオが考えられないか。
- ⑤ 簡易ティーチング・ポートフォリオをポータルとしたイメージについて、具体的なワークシートを例示してはどうか。

### (3) 次回委員会で検討する項目についての意見

- ① 「3. 教育プログラムの効果を学部または学科単位で点検するための仕組み」については、点検の仕組みというのは難しそうなので、学修ポートフォリオをIRの中で関連付けて教育プログラムを見直す際に役立っていることを紹介する程度に留めてはどうか。
- ② 「5. 教職員の意識変革を推進する取り組みの留意点」については、教職員が主体的に行動できるように意識の変容を促す仕掛けや工夫などとしてはどうか。そのようなことから、意識変革ではなく行動変革に改める必要がある。

## V. 今後の検討の進め方について

次回の委員会は、2月19日に開催を予定することにした。

今回の議論を踏まえてティーチング・ポートフォリオについてワークシートなどのイメージを含めて確認し、「3. 教育プログラムの効果を学部または学科単位で点検するための仕組み」、「5. 教職員の意識変革を推進する取り組みの留意点」について検討することにした。